

琉球の歴史が息づく「知花花織」 花織の里から心癒される 布をお届けいたします

知花花織事業協同組合

知花花織事業協同組合（沖縄市知花、小橋川順市理事長、098・921・1187、<http://www.chibana-hanaori.com/>）は、花織の里「知花」で永年受け継がれてきた技法を用い、古と現代の感性で手織る「知花花織」（経済産業大臣指定・伝統的工芸品）の継承・販売を行っている。

知花花織とは、沖縄市知花、登川（のぼりかわ）地域などを中心に伝承された織物技術のひとつである。戦争などで、織物技術の継承や花織

衣装の着用が困難な時期もあったが、平成20年に沖縄市が中心となり知花花織を蘇らせる試みがスタートし、現在は同組合の研究によって、織手の育成が図られるなど新しい息吹が吹き込まれ受け継がれている。



織手を育成し、手織の伝統技術「知花花織」を後世へ継承していく

知花花織は、模様が縦方向に連続して浮く「経浮花織」（たてうきはなおり）と刺繍のように糸模様の浮く「縫取花織」（ぬいとりはなおり）が大きな特徴で、この2つの技法が今日まで守られ継承されて地域文化を形成している。

五穀豊穡を願う奉納舞踊などの衣装から地域の人々に親しまれてきた知花花織は、伝統を守りながらも、新たな技法を取り入れた和服など、身近な暮らしの中の伝統的工芸品として愛用されている。

また、織手の豊かなアイデアは模様に留まらず、リゾートホテルの制服やテールセンサー・ネクタイ・名刺入れなど現代の生活にもマッチする製品開発にも力を入れ、沖縄市を代表する織物として、国内外に広く発信している。

「知花花織」の名刺入れなど、現代の生活にもなじむ製品づくり

